

令和 3 年 6 月 19 日現在

機関番号：32611

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00137

研究課題名(和文) 国立音楽大学「ベートーヴェン初期印刷楽譜コレクション」の精査と研究(1)

研究課題名(英文) An examination and a Research on the "Collection of Early Printed Editions of L. v. Beethoven" of the Kunitachi College of Music Library (1)

研究代表者

沼口 隆 (NUMAGUCHI, Takashi)

国立音楽大学・音楽学部・非常勤講師

研究者番号：70453529

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：国立音楽大学附属図書館は、ベートーヴェン作品の1900年までに刊行された印刷譜を1500点近く所蔵している。しかし、これらは初版から編曲譜に至るまで、さまざまな種類の楽譜の寄せ集めである。有効活用をするためには、インターネットを通じて多くの人々の目に触れる状態とし、異なる観点から自由に研究ができるようにする必要がある。

本研究では、交響曲の編曲譜に焦点を当て、約130点の楽譜をPDF化して、インターネット上で公開するための準備を整えたほか、その書誌情報の整理を行った。また、レクチャーコンサートなどを通じ、コレクションの存在を紹介するとともに、作品の本来の姿である音響像も提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、ベートーヴェンの交響曲の編曲譜に焦点を当てた。これらは、作曲者のオリジナルではない一方で、19世紀の作品受容の在り方を伝える貴重な資料であり、しかも現在では一般に触れられる機会もきわめて限定されている。約130点の該当楽譜をすべてPDF化してインターネット公開の準備を整えたほか、書誌情報も整理した。また、複数回のレクチャーコンサートを通じ、音響としても作品像を提示した。

研究成果の概要(英文)：The Kunitachi College of Music Library owns about 1,500 editions of Beethoven's works which were in print until 1900. These are, however, mere assemblages of various editions of Beethoven's works, ranging from original first editions to later arrangements of such. Therefore, in order to make the most of the collection, the resources should be made openly available to the wider public, such that they can be freely examined from various perspectives, by anyone.

In this study we have focused on arrangements of Beethoven's symphonies and have, in preparation for making them public on the internet, scanned about 130 editions as PDF data. Additionally, the bibliographical details of those editions have been examined. Finally, through organizing lecture concerts, we have introduced the collection to the public, realizing some of the works in sound, and presenting them in the way that they were originally intended to be presented.

研究分野：人文学、芸術学、芸術一般

キーワード：ベートーヴェン 交響曲 編曲 出版譜 国立音楽大学 19世紀

1. 研究開始当初の背景

国立音楽大学附属図書館(以下「附属図書館」)が所蔵する「ベートーヴェン初期印刷楽譜コレクション」(以下「コレクション」)は、ベートーヴェン作品ないしはそれに基づく編曲の19世紀における出版譜を集めたものである。2014年に約60年ぶりに情報が抜本的に改訂されて刊行されたベートーヴェンの作品目録『ベートーヴェン作品目録 Ludwig van Beethoven. Thematisch-bibliographisches Werkverzeichnis』(Munich: 2014; 以下「作品目録」)では、1830年頃までの印刷譜の情報を掲載しているが、国立音楽大学(J-Tk= Kunitachi Ongaku Daigaku, Tokyo)も所蔵機関として数多く記載されており、この点だけに鑑みても、コレクションがいかに貴重な資料を含んでいるかが明らかである。2015年度の現物調査では1429点が確認され、点数の面でも国際的に屈指の規模である。

コレクションの重要性は、かねてから認識されてはいた。コレクションの目録が作成されてインターネット上に公開され(以下「インターネット目録」)、国立音楽大学音楽研究所にベートーヴェン研究部門が設置されていた期間(2001~06年度)にも、研究所の年報などで研究対象としての価値が何度も指摘されていた。しかし、インターネット目録に関しては、残念ながら根本的な見直しが必要である。2015年に附属図書館が現物確認を行った際には、コレクションの点数について、附属図書館の事務が管理している目録(以下「管理目録」)に掲載されている数と、インターネット目録に掲載されている数との間に少なからぬズレが生じていたほか、インターネット目録に含まれているのに現物が確認できないものもあるなど、内容にも齟齬が生じていた。まずは、管理目録を、現物の現状と一致させ、それを踏まえた新たな目録をインターネットに公開しなおすことが必須である。

所蔵文献のデータ整備が急務であった一方で、所蔵楽譜自体をどのように研究対象とするかという問題もあった。対象は、初版譜をはじめとする最初期のものから、種々の後継版におよび、編曲版も含んでいる。すべてを一括りにしてひとつの研究対象として扱うことは現実的ではなく、むしろ多くの人の目に触れる形にして、さまざまな興味関心から、自由に扱うことを可能にすることが望ましいと考えた。

たとえば初版などは、資料としてきわめて貴重ではあるが、批判校訂版や作品目録を作成する経緯において、すでに十分に研究されている可能性が高い。こうした楽譜を対象として、新たな研究を企図しても、新規の発見に繋がる期待は高くない。しかし、一括りに「初版」と言っても、刷が異なるなどの理由により、微細な相違が生じている例もあり、各分野の専門家に確認ができる状況を作ることが望ましい。こうした目的を叶えるために、楽譜を電子データ化し、インターネット上で公開することが計画された。

申請課題にとっては、管理目録の整備や楽譜の電子データ化といった作業以外に、具体的な研究内容が必要となった。そこで注目したのが交響曲の編曲譜であった。交響曲の編曲譜の中で、ベートーヴェン自身が手掛けたものはなく、したがってそれらは純粋な意味で「ベートーヴェン作品」とは位置づけられない。他方、録音媒体がなく、また今ほど演奏会制度も発達していなかった19世紀にあって、編曲譜は、作品を気軽に楽しむ貴重な手段であり、まぎれもなく当該作品の作品像を構成する要素であった。

以上のような状況から、最終的な目的はコレクション全体を適切な書誌情報とともにインターネット・アーカイブとすることに定めつつ、当面は交響曲の編曲に的を絞り、既存の書誌情報との照合とスキャンによる電子データ化を目標とした。

2. 研究の目的

本研究の最終的な目的は、コレクション全体をインターネット・アーカイブ化することであるが、当該課題の目的としては、その中の交響曲の編曲譜に着目し、管理目録と現物楽譜との照合を行って、情報を漏れなく整備するとともに、楽譜をスキャンして電子データ化することに定めた。また、こうした編曲レパートリーに関しては、演奏機会や録音が非常に限定されていることから、実際の演奏を通じて、できるだけ多くの聴衆に音響像を提示することも目的とした。

3. 研究の方法

附属図書館の協力を得て、通常は別途に倉庫に委託管理されているコレクションを取り出し、現物を見て管理目録や作品目録の記載内容との照合を行うとともに、楽譜をスキャンして電子データ化した。この作業には、国立音楽大学大学院博士後期課程の学生にアルバイトとして協力を得た。

楽譜の中身の検討にあたっては、勉強会を行い、ピアノで試奏して意見を出し合うなどした。その結果を踏まえて演奏会用の選曲を行い、附属図書館におけるレクチャーコンサートのほか、学外での演奏会を企画した。

4. 研究成果

完成年度となった2020年度には、新型コロナウイルス禍の影響を大きく受け、一時的には作

業が完全に停止した。大学構内に学外者が入構できない状況の中で、レクチャーコンサートの開催も断念せざるを得なかったが、下記の通り、演奏会自体はどうか実現することができた。

対象とした楽譜については、総計 128 点をすべて PDF 化することができた。作業工程が確立されてからは順調に作業が進み、本来であれば対象としたもの以外の楽譜もスキャンできる見通しが立っていたが、2020 年 4 月に発出された緊急事態宣言の影響で、一時的には学内への入構が不可能となり、その後もアルバイト学生が出校できる機会が大幅に減ったことから、作業速度は大幅に減じた。むしろ、最終年度の最後まで粘り強く作業を続けてくれたアルバイトのおかげで、辛うじて対象範囲の楽譜をすべてスキャンできたことが幸運だったとも言えよう。

スキャンの作業と並び、管理目録や作品目録との情報の照合も行った。前者については、完遂にまでは達しなかったが、9 割以上は終わっており、附属図書館に作業が引き継がれた。この作業が完結し次第、交響曲の編曲譜に限定したインターネット上での公開も視野に入ってくる。これについては、附属図書館が立命館大学アート・リサーチセンターとの共同研究によってすでに公開している「竹内道敬文庫」と類似の手法が採用できる見通しとなっている。

2019 年 12 月 16 日に実施した附属図書館の「ライブラリー・レクチャー vol. 5」では、「室内楽で聴くベートーヴェン交響曲第 5 番『運命』作品 67」と題し、第 1 楽章のヴァイオリンとピアノのための編曲版 (J. アンドレ編曲)、第 2 楽章のピアノ 4 手用編曲 (F. シュナイダー編曲)、第 3・4 楽章のピアノ四重奏編曲 (J. フンメル編曲) を演奏した。演奏企画は研究代表者と協力者の全員で行い、演奏に関しては全演目でピアノを担当した沢田が統括し、沼口がレクチャーを担当した。このレクチャーコンサートについては、現段階では非公開ではあるが、専門家による撮影・録音の記録も残した。

完成年度の演奏会については、会場の選択に紆余曲折があったが、最終的には、沼口が国立音楽大学から東京藝術大学に移籍したこともあり、東京藝術大学奏楽堂が会場となった。2020 年 11 月 1 日の演奏会は、東京藝術大学自体の「藝大プロジェクト 2020～ベートーヴェン生誕 250 年記念～」と連携したもので、新型コロナウイルス禍により「第 1 回」が中止となった中、「第 2 回<室内楽編曲で聴くベートーヴェン>」として実現に漕ぎつけた。感染対策のために、入場者は会場定員の 50% に押さえられたが、NHK 交響楽団の現役・OB の演奏者をはじめとして、日本を代表する演奏者たちを揃えた演奏会は好評を博した。こちらでは、《エグモント》序曲 op. 84 のピアノ三重奏版 (C. ブルヒャルト編曲)、交響曲第 5 番 op. 67 のヴァイオリンとピアノ二重奏版 (J. アンドレ編曲版)、《交響曲第 2 番》op. 36 の九重奏曲版 (F. リース編曲版) を披露した。交響曲第 5 番については、上記のレクチャーコンサートでも取り上げた編曲だが、前者では第 1 楽章のみを学生のヴァイオリンで披露したのに対し、プロのヴァイオリンで全曲を披露し、特異な編成が大変な熱演によって大いなる魅力を放った。交響曲第 2 番については、残念ながら直前に音源が発売されたが、他の 2 曲については、演奏された記録も確認できず、いずれもきわめて珍しい編曲を生演奏で披露できたことの価値は大きい。ここでも、演奏面での采配は沢田が担当し、交響曲第 5 番のピアニストとして出演も果たした。一方、レクチャーに関しては、沼口が担当した。この演奏会の模様は、インターネット上で配信されている (<http://arcmusic.geidai.ac.jp/10051>)。

上記の「ライブラリー・レクチャー」のための準備的研究、並びに同企画における経験を踏まえた上で、沢田と沼口の共著により論文「ベートーヴェン交響曲第 5 番の幾つかの編曲について」を『国立音楽大学研究紀要』第 55 巻 (2021) に掲載した。一口に「編曲」と言っても、編曲者の介入の仕方はさまざまであり、原曲に忠実であろうとしつつ、限られた楽器で最大限の効果を生み出しているものから、原曲にはない「余計な」音型を付け加えているものまで、内容にはかなりのばらつきがあることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 沢田千秋、沼口隆	4. 巻 55
2. 論文標題 ベートーヴェン交響曲第5番の幾つかの編曲について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立音楽大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 189-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	沢田 千秋 (Sawada Chiaki) (50816387)	国立音楽大学・音楽学部・非常勤講師 (32611)	
研究分担者	安田 和信 (Yasuda Kazunobu) (90751371)	桐朋学園大学・音楽学部・准教授 (32662)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------